

(3)

昭和44年(1969年)4月7日

民主主義学生同盟第十一回全国大会は、三月二十七日、大阪市内、桃山学院大学昭和町校舎において開かれた。大会は山本委員長の基調報告を受けたのち全国から結集した代議員によつて、白熱した討論が重ねられた。その結果、同盟が第九回大会以来止揚しつつあつた構造改革派学生運動からの訣別を確認し、これまで兄弟組織として闘つてきた法政大学学生社会主義者同盟、和光大学反戦学生同盟とともに、プロレタリア学生同盟への組織発展を宣言した。

新たな階級的學生同盟を宣言したプロレタリア学生同盟は、翌二十八日、ただちに第一回全國大会を開催し、過渡的暫定的な結集基準と規約を全会一致で採択し、茂山委員長(京都大

プロレタリア 学生同盟 結成

学)以下、十五名の中央委員会指導体制を選出確定した。プロレタリア学生同盟は、旧民学同が内包していた一国社会主義の算術的総和のうえに世界社会主義を展望する平和共存戦略、階級的立場の論理をかえりみることなく、学生の即時的意識に拝跪した層としての学生運動論など、総じて思想における客観主義の弊害を止揚する地平を実践において切り拓いていくであろう。

七〇年反安保構造闘争のまつた中に、プロレタリア国際主義の旗たかく、その雄姿をあらわしたプロレタリア学生同盟は共産主義労働者党の指導のもとに、人類史上最後の階級闘争の自覺の一翼として自らを領導するであろう。

(詳報次号)